

# 特別支援教育実践マニュアル

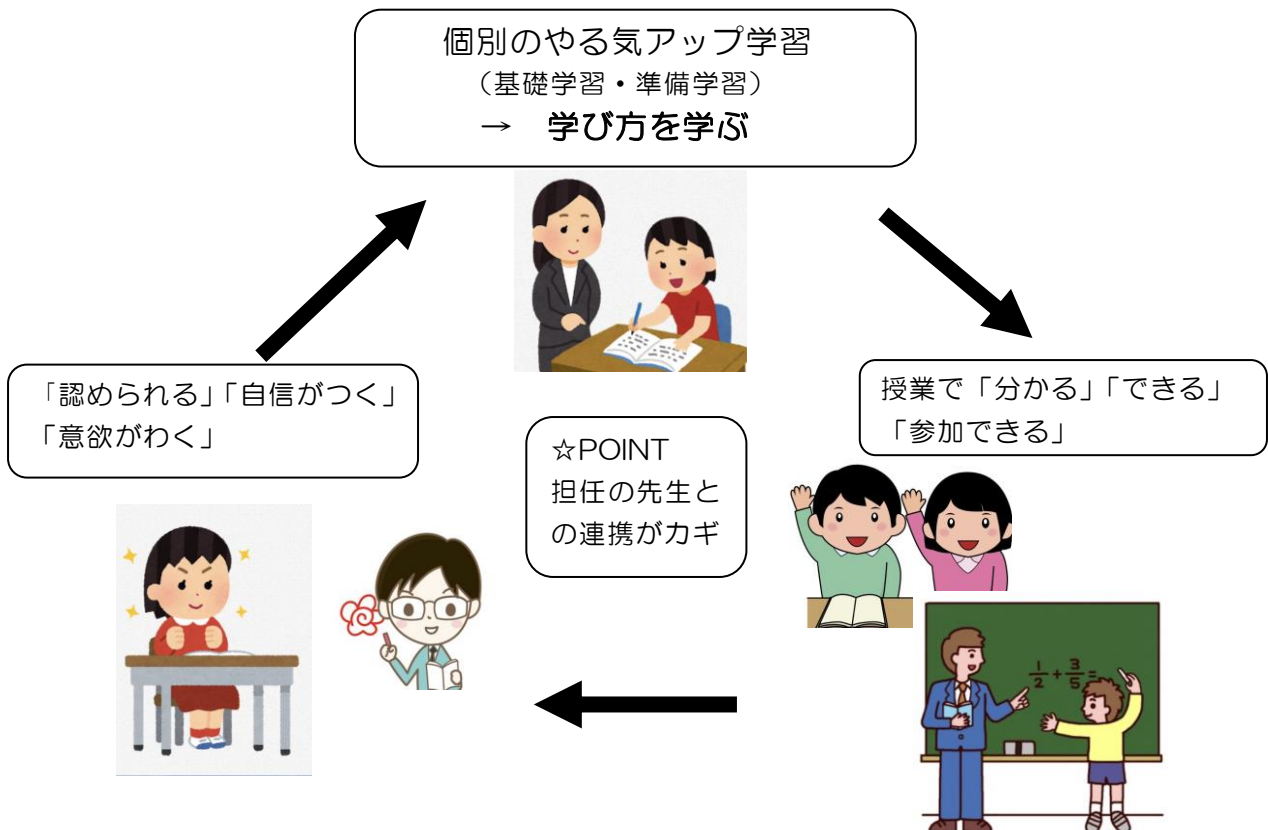
<No.25>

## ～「学習支援室の効果的な活用」～

浦安市立小中学校の学習支援室には、令和3年度から新たに学習支援室活用推進教員が配置されます。このマニュアルでは学習支援室の効果的な活用方法を紹介しします。

特別な教育的支援を必要としている子どもたちは、さまざまな課題を抱えていて毎日苦しい・不安な思いをしていることが少なくありません。そのような子どもたちが学習面において「わたしはこうやったら分かる・できる」という自分にあった方法を学習支援室活用推進教員と一緒に見つけ、教室での授業で分かる・できる体験をし、自信をつけ、学習意欲を高めることが目的です。

令和2年度には、市内小学校の協力を得て、授業でこれから扱う教材（題材）などを使い、基礎的学習を行う「やる気アップ学習」を実践しましたので事例をもとに紹介しします。



# 1 「個別のやる気アップ学習の内容と指導のポイント」



## 個別の学習内容

### <国語の「やる気アップ学習」例>

- ・教科書を一緒に読んで、あらすじを確認しておく。
- ・物語の登場人物の確認やどの言葉を誰が言ったのかを確認しておく。
- ・教科書の音読を一緒にしておく。
- ・教科書の漢字にルビをつけたり、文節ごとにスラッシュをつけたりして、読みやすくしておく。
- ・分からない言葉の意味を一緒に調べておく。
- ・新出漢字を一緒に確認しておく。
- ・文章作りの練習を行う。(5W1H) など



### <算数・数学の「やる気アップ学習」例>

- ・コンパスや分度器等の道具の使い方を練習しておく。
- ・授業で使用する道具の使い方に慣れる練習をしておく。
- ・次時に学習する問題を1問、解けるようにしておく。
- ・具体物を使って、次時以降に学習する計算の意味を確認しておく。
- ・次時以降に学習する文章題の意味を確認しておく。
- ・グラフの読み取りを一緒に確認しておく。 など



### <英語の「やる気アップ学習」中学生の例>

- ・教科書に出てくる単語の意味を事前に調べておく。
- ・デジタル教材を用いて、教科書の英語を聞き、音声に慣れておく。
- ・英語を読んだり書いたりすることが苦手な生徒は、フォニックスで覚える。(文字と音をつなぐ指導法：Sの音は「エス」ではなく「ス」、Aの音は「エー」ではなく「ア」で覚える。自分の覚えやすい方法を一緒に見つける。) など

## 指導のポイント

個別の指導計画に基づいて、学習支援室の利用、個別学習の内容を検討しましょう。



- ①本人から**答えを引き出す**ことを心掛け、**本人のペース**で課題を進めることが大切
  - ・分からない時には、**答えを教えるのではなく、ヒントを出す**ことで「自分でできた！」という**達成感を味わえるよう工夫**しましょう。
  - ・本人が迷った時には、「こういうこと?」「こう書いてみる?」「これとこれならどっち?」などと本人が考えられるように**ヒントや選択肢を出し**ましょう。
- ②**本人なりに得意な覚え方ややり方があることを見つける**
  - ・バスケットボールが好きな子には、「対」の漢字をバスケットボールの○対○で理解させるなど、興味のあること、好きなものなどを取り入れましょう。

## 2 「個別のやる気アップ学習 指導事例～実施内容と成果～」

### 事例(A児:5年)



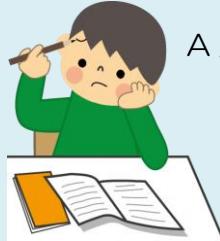
学級担任

#### <担任の願い>

物語文、説明文、詩等の内容を読み取れるようにさせたい。

#### <本児の特徴>

- ◎真面目で前向き。  
(苦手な漢字を繰り返し練習し、自信をつけることがあった。)
- △漢字を覚えることに苦手さがある。  
語彙が少なく、文章が読み取れない。



A児(5年)



保護者

#### <保護者の思い>

勉強したことが、なかなか定着せず心配なので、面談で担任の先生に相談してみようかな？

### <実施した課題事例>

- これから教室の授業で学習する国語の「世界遺産 白神山地からの提言」の音読

### <本児の様子>

- 本文全3ページ分をスムーズに声に出して読むことが難しかった。
- 読めた漢字は少なかったが、読めない漢字は、その漢字の別の読み方、他の使い方などのヒントを出しながら音読し、自分でルビふりができた。
- 途中で「漢字が苦手」「めんどくさい」「漢字は嫌い」と言うこともあったが、最後まで音読とルビふりができた。



### <個別指導時のポイント>

- 漢字が読めない時は、「入」は「入場門」、「書」は「図書」のように知っていそうな言葉を示し、引き出すようにした。
- ヒントを出しながら「自分でできた」という達成感を味わわせ、学習は楽しいものと感じられるようにした。



### <教室での様子(担任からの報告)>



◎音読を練習してもらったことで、教室の授業で「まる読み」をした時、これまでスムーズに読むことができなかったが、以前より上手に読むことができた。周りの子から「オー」という声上がり、拍手が起きた。本人も「やった!」という感じであった。(クラスの雰囲気は温かいことがプラスになっている。)本人は苦労も苦労と感じずにやっており、周りの子も頑張りを認めている。苦手な漢字も既習したものを覚えようという意識が見られた。

◎算数や社会のテストも良い点がとれるようになってきている。

\*昨年度は、漢字でつまずき、問題文を「読めない」と言っていた。

テスト問題の文章(短文)を読もうとする気持ちが出てきた成果である。

### 3 「学習支援室でやる気アップ学習を経験した子どもの感想」



Aさん

- 漢字の書き方やコツが分かった。
- すこしわかっていたので、自分の学級の授業で、手を挙げやすかった。その時、とても気持ちがよかった。
- 文章を書く時に、先に練習しておいたので、本番で迷わないで書くことができた。
- 自分の力で書くことができることが多くなった気がする。



Bさん

- 漢字の書き方や読み方がよく分かった。
- 教室で音読をしている時、途中でつまずいたら、みんなを待たせてしまうので、迷惑をかけているなと思ってしまう。学習支援室で、音読の練習をしておいたら、前よりもつまずかなくなった。これをもっと続けていったら、完璧に読めるようになるかもしれないと思う。
- 自信がついた。



Cさん

- やる気アップ学習は楽しかった。
- 今まで、授業中、よく分からなくて、頭に入らなかった。学習支援室で勉強してから授業を受けると、分からない言葉を先に調べてあったので、意味が分かって頭に入りやすかった。
- 授業で、発表することが増えてうれしかった。  
(物語文の登場人物を答えるなど)



Dさん

- 教科書を先に読んでいると、漢字の読みが分かる。内容も分かった。
- 作文の時は、やる気アップ学習で学んだメモを作ることが役立った。教室で作文を書く時に、とても書きやすかった。これまで何を書けばよいのかが分からなくなったり、周りの人の「カリカリ」という鉛筆の音が耳に入り、「みんな進んでいるのに・・・」と焦ったりしたけど、やる気アップ学習をすることでそれがなくなった。
- 休み時間に教室で残って復習するよりもやる気アップ学習のほうがよかった。

### 4 「担任と学習支援室担当者との連携」

学習支援室で個別指導を経験した子どもが、教室の授業に積極的に参加し、担任やクラスメイトに認められることで自信をつけ、次の学習に向かう意欲を高めていくプラスのサイクルをつくっていくことを目指します。そのためには、学習支援室での学習内容を何にするか、学習支援室での取り組み状況、教室での授業への取り組み状況等について、担任と情報を共有し連携を図っていくことが重要となります。協力校では、毎回、個別指導を担当する教員が記録を作成し、担任がその記録を確認することで、連携を図ってきました。



教育研究センター  
浦安市富岡 1-1-1(富岡小学校内)  
381-7961